

ここがいい! こながい



小長井図書館だより

2026年 2月号 No.306

諫早市立小長井図書館
〒859-0165
諫早市小長井町小川原浦825
(小長井文化ホール内)
0957-34-2972
開室時間
火~金 午前10時~午後6時
土・日 午前 9時~午後5時

蔵書点検のお知らせ

2/18(水)・2/19(木)は蔵書点検のため休館します

| | |
|------------|------------------------------|
| 西諫早 | 1月 28日(水) ~ 1月 30日(金) |
| 森山 | 1月 28日(水) ~ 1月 30日(金) |
| 飯盛 | 1月 29日(木) ~ 1月 30日(金) |
| 諫早 | 2月 3日(火) ~ 2月 6日(金) |
| 高来 | 2月 5日(木) ~ 2月 6日(金) |
| たらみ | 2月 17日(火) ~ 2月 20日(金) |
| 小長井 | 2月 18日(水) ~ 2月 19日(木) |

休館中の返却は、返却ポストをご利用ください。

なお、視聴覚資料・紙芝居は開館中にカウンターに返却してください

2月カレンダー

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |



おはなし会
休館日

新着案内【一般書】

『一文字助真』 佐伯泰英：著 光文社

豊後国日出藩に生を享け、厳しい剣の修行に明け暮れる若侍・猪俣小次郎は、愛刀一文字助真を携え孤独な剣術修行の旅に出た。道中で出会った姉を捜す少女・薫子と小次郎はともに江戸吉原に辿り着くが…。

『どうせ死ぬなら、最後にミーアヤム』

ブリアン・クリスナ：著 春秋社

巨漢で嫌われ者、友だちもいない会社員のアレは、37歳の誕生日、24時間後に死ぬことを決めた。最後にミーアヤム(鶏肉麺)を食べようと屋台に行くも、店主は不在。その後も次々に災難が降りかかり…。ヒーリング小説。

『グルテンフリーのおぼん献立』 たかせさと美：著 宝島社

『解決!高齢者のピンチ』 石田竜生：著 メディカル・ケア・サービス

『台所道具の選び方、使い方、繕い方』 日野明子：著 グラフィック社

今年の節分は2月3日です



節分は年に4回ある季節の分かれ目を意味しています。4つの季節が始まる立春、立夏、立秋、立冬の前日は、いずれも節分と呼ばれていました。

旧暦では立春頃が年の始めとされ、立春の前日は今の大晦日にあたり、最も大切な節分でした。そのため厄を払って清らかな状態で新年を迎えようとする行事が生まれました。

宮中では、追儺(ついな)という鬼追い行事が行われていました。文武天皇の頃に、中国の宮廷行事を輸入したものでした。追儺では、黄金4つ目の仮面をつけた方相氏(ほうそうし)と呼ばれる陰陽師が中心となり、親王以下群臣が桃弓で葦矢を空に放ち、目に見えない悪霊を追いはらいました。

方相氏の異様な姿は、次第に無形の鬼の存在を忘れさせ、方相氏自身が鬼と見做されるようになっていきました。これが寺社の行事に採り入れられ、季節の変わり目の鬼祓い行事として知られるようになりました。

『これだけは知っておきたい 年中行事の常識67』 一藝社より

あたらしく入った本



バレンタインデーにおすすめの本



『ゴシゴシどろんこトラック』 ミノオカリュウスケ：さく 文芸堂



のりものそうじはゴシゴシにおまかせ! のりものそうじやのゴシゴシはどしゃぶりのあと、なぞのどろのかたまりに「おーい、あらってたすけてくれないか?」と声をかけられ…。「ゴシゴシどろんこのうた」の歌詞と楽譜も掲載。



『ひつじのぼうし』 おがたれいこ：さく はらかずお：しゃしん 誠文堂新光社



ふわふわの羊の毛が、刈られて、洗われて、紡がれて糸になり、赤い帽子に編まれるまでを写真で紹介する。身の回りのもの、ものを作ることへの興味が出てきた子どもに贈る手芸の絵本。帽子の編み方付き。



『おにのやくそく』 やまだともこ：さく モカ子：え PHP研究所



ぼくは、かいと。ある日突然、鬼のまたべえがぼくの家にあそびにきた。トランプで負けたぼくは、またべえが頭から引っこ抜いて置いていった角をみがくことになったけれど、約束をやぶってしまい…。

『子供が作れるプレゼント菓子』 柴田書店

クッキー、ケーキ、チョコレートのお菓子…。プレゼントにぴったりなお菓子の作り方を、4人のパティシエが子どもにもわかりやすい言葉で説明する。お菓子づくりの基本や道具、材料、ラッピングなども紹介。

『1年生からのらくらくレシピ チョコレートスイーツ』 若宮寿子：監修 文研出版

小学1年生から作れる簡単・楽ちんなスイーツを紹介するレシピ集。ホットチョコレート、チョコグミ、トリュフなど、低学年向けのレシピから、高学年向けの火を使うレシピまで、チョコレートスイーツ15レシピを掲載する。



チョコレートは飲みものだった!?

2月14日はバレンタインデーですね。バレンタインと言えばチョコレート。誰もが知るお菓子ですが、ヨーロッパに持ちこまれたころのチョコレートはとても高価で、お金持ちの飲み物だったそうです。

ほろ苦さと甘さのあるお菓子、チョコレートのそもそもの始まりは、飲み物だった。

チョコレートの原料はカカオ豆。この豆が取れる中央・南アメリカの人びとは、豆を煎ってつぶし、水や卵などと混ぜて飲んでた。今のメキシコにあったアステカ帝国では、皇帝や貴族のための薬用の飲み物だった。

やがて500年ほど前にスペイン人が持ちかえると、飲み物としては苦いので、砂糖やハチミツを加えて甘くするようになったんだ。

その後、170年ほど前に、固めて食べるチョコレートが作られるようになったんだ。

『たべものびっくり事典』ポプラ社より

※内容紹介は新刊全点案内より